

関西フィル



NEW YEAR CONCERT 1998

関西フィルハーモニー管弦楽団～ニューイヤーコンサート

●プログラム

エルガー

行進曲《威風堂々》第1番
 オッフェンバック
 喜歌劇《天国と地獄》序曲
 J.シュトラウスⅡ
 トリッチ・トラッチ・ポルカ
 ポルカ《雷鳴と電光》
 レハール
 ワルツ《金と銀》
 喜歌劇《メリー・ウィドー》から
 ヴィリアの歌

ヴェルディ

歌劇《ナブッコ》序曲
 歌劇《椿姫》から
 乾杯の歌

プッチーニ

歌劇《ジャンニ・スキッキ》から
 私のお父さん
 歌劇《トゥーランドット》から
 誰も寝てはならぬ

マスカーニ

歌劇《カバレリア・ルスティカーナ》間奏曲
 カルディッロ
 カタリ、カタリ



指揮/堤 俊作

指揮：堤 俊作（茨木市出身）

conductor：TSUTSUMI Shunsaku

ソプラノ：高橋薫子（姉妹都市・内海町出身）

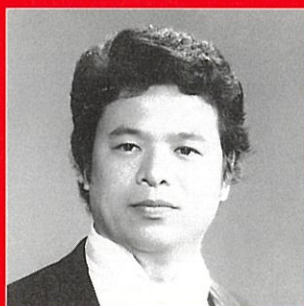
soprano：TAKAHASHI Nobuko

テノール：林 誠

tenor：HAYASHI Makoto

管弦楽：関西フィルハーモニー管弦楽団

orchestra：KANSAI PHILHARMONIC ORCHESTRA



テノール/林 誠



ソプラノ/高橋薫子

平成10年（1998年）

1/12

【月】19:00開演

（18:30開場 21:00終演予定）

茨木市市民会館大ホール

茨木市駅前四丁目7番50号 ☎0726-23-3962

阪急茨木駅から西へ徒歩8分 JR茨木駅から東へ徒歩8分

1階席：一般 4,000円 高校生以下 2,000円
 2階席：一般 3,000円 高校生以下 1,500円 [全席指定席]

※就学前のお子様のお入場はご遠慮ください。

■チケットの取り扱い [10/13発売]

(財) 茨木市文化振興財団 ☎0726-25-3055

関西プレイガイド協会 ☎06-456-2555 / チケット・セゾン ☎06-232-9090

ローソンチケット ☎06-369-6633 [Lコード 55144] / チケットぴあ ☎06-363-9999

※高校生以下の割引券は、文化振興財団のみの取り扱いとなります。

■お問い合わせ・電話予約

☎0726-25-3055 (財) 茨木市文化振興財団 月～金 9:00～17:15 [土、日、祝日は休業]

主催：財団法人茨木市文化振興財団 〒567 茨木市駅前四丁目7番16号 クリエイトセンター1F

堤 俊作

〈指揮〉

TSUTSUMI Shunsaku

1946年、大阪府茨木市生まれ。茨木市立中条小学校・養精中学校卒業。1970年、桐朋学園大学を首席で卒業。在学中は、コントラバスを専攻、同時に指揮を斉藤秀雄氏に学ぶ。1971年、東京交響楽団副指揮者に就任。1973年から1977年まで東京交響楽団正指揮者を務めた。1974年ロンドンのルバート指揮者コンクールに入選。1978年ジュネーブの第1回アンセルメ指揮者コンクールで優勝。1975年東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団を創立し、1992年まで17年間にわたって常任指揮者を務めた。1988年には札幌交響楽団専属指揮者となる。

国際的にも幅広く活動しており、ロンドン交響楽団、スイス・ロマン管弦楽団、ソフィア・フィルをはじめ、欧米のオーケストラや音楽祭にも度々出演。一方、バレエ公演における指揮でも国際的な名声を得、第一人者として欧米の舞踊家、振付家からも絶大な信頼を得ている。

1997年は、指揮者デビュー25周年にあたり、ロイヤルチェンバーオーケストラに続き、ロイヤルメトロポリタン管弦楽団を創立し、25周年記念公演（全8回）を行っている。

また、コントラバス奏者としてわが国での代表的な演奏家の一人でもある。桐朋学園においては、指揮者のみならずコントラバスでも後進の指導にあたっており、その門下からは、河原泰則、池松宏をはじめ、多くの逸材を輩出している。

現在、ロイヤルチェンバーオーケストラ及びロイヤルメトロポリタン管弦楽団音楽監督、静岡交響楽団音楽監督、梓室内管弦楽団音楽監督、関西フィルハーモニー管弦楽団指揮者、牧阿佐美バレエ団音楽監督、井上バレエ団音楽監督、岐阜国際芸術祭芸術監督、桐朋学園大学講師、尚美学園客員教授、大阪国際室内楽コンクール審査員。

高橋薫子

〈ソプラノ〉

TAKAHASHI Nobuko

茨木市の国内姉妹都市である小豆島・内海町生まれ。国立音楽大学卒業、同大学院修了。文化庁オペラ研究所第7期修了。1990年、イタリア声楽コンクールでシエナ大賞受賞。同年、モーツァルト没後200年記念国際モーツァルト声楽コンクール本選で「アンナ・ゴットリーブ賞」を受賞し、ウィーンフィルと共演。1991年から1993年まで、五島記念文化財団奨学生としてミラノに留学。オペラでは1990年、藤原歌劇団公演《ドン・ジョバンニ》でツェルリーナでデビューを飾り、1993年、急速《ルチア》でタイトルロールの代役を歌い絶賛を博した。1995年、《愛の妙薬》でのアディーナでも好演した。その他、国立音楽大学オペラ、モーツァルト劇場などで《魔笛》、《コシ・ファン・トゥッテ》、《セヴィリアの理髪師》などに共演。また、イタリアのペーザロでのロッシニ・フェスティバルや、ローマ、イギリスなどのコンサートに共演した。オーケストラとは、「ニューイヤークンサート」やマーラー「交響曲第8番」（インバル指揮）、フォーレ「レクイエム」（小沢征爾指揮）、「カルミナ・ブラーナ」、「第九」等のソリストとして共演するほか、「A.バルツァ&J.カレーラス ガラコンサート」、リサイタルでも好評を博している。

第2回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。1995年、第23回ジロー・オペラ賞新人賞受賞。平成8年度村松賞受賞。1996年、第26回モービル音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。藤原歌劇団団員。

林 誠

〈テノール〉

HAYASHI Makoto

1971年、日伊声楽コンクールでシエナ大賞、1972年、音楽コンクールで第3位。スペインのマリア・カナルス国際コンクールで優秀賞を受けるなど、内外のコンクールで数々の賞を受賞した。1971年関西歌劇団の《カヴァレリア・ルスティカーナ》のトゥリッドウでデビュー。その後たてつけに主役を演じ、数々のオペラや交声曲のソリストとして活躍。このような充実した活動に対して1976年、大阪文化祭賞、大阪府民劇場賞、音楽クリティック・クラブ賞を受賞。1979年7月、小沢征爾指揮《トスカ》のカヴァラドッシでは、張りのある美声と情熱的演技で絶賛を博し、11月の《ラ・ボエーム》のロドルフォで大阪文化祭賞を再び受賞。1981年11月には東京で、創立100周年のため来日した小沢征爾指揮ボストン交響楽団の第九公演にソリストとして出演し声価を高めた。1982年5月、東京で初リサイタルを開催し絶賛を博した。9月には大阪で、シリーズとして3回にわたって催してきたリサイタルの最後を邦人作品を集めて好評のうちに終える。これらの活躍に対して、昭和57年度芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。わが国を代表するテノール歌手としての実績にたいして、昭和58年度大阪府民劇場賞を受賞した。1987年関西歌劇団公演で、《道化師》のカニオと《カヴァレリア・ルスティカーナ》のトゥリッドウの性格の異なる二つの主役を一晚で演じ絶賛された。その後小沢征爾プロダクションオペラ《ホフマン物語》・《スベードの女王》・《サロメ》等に主演。現在、大阪音楽大学教授。

関西フィルハーモニー管弦楽団

KANSAI PHILHARMONIC ORCHESTRA

1970年、ヴィエール室内合奏団として発足。後に、ヴィエール・フィルハーモニックと改称したが、海外演奏旅行を含め12年間にわたるオーケストラ活動を基盤に、1982年1月、「関西フィルハーモニー管弦楽団」として新発足した。以来、関西を中心に活動を続け、現在では関西を代表するオーケストラの一つとなっている。

楽団主催の定期演奏会や特別演奏会では毎回意欲的なプログラムに挑み、その質の高い演奏は、聴衆の高い評価を得ており、1994年11月の106回定期演奏会は、平成6年度大阪文化祭賞本賞を受賞した。関西フィルの特長は、幅広いレパートリーを持っていることにあり、クラシック、バレエ、オペラ音楽はもとより、ポップス、スクリーンミュージックに至るまで、様々なニーズに対応しており、多くの関西フィルファンから高い支持を得ている。また、関西における音楽の殿堂ザ・シンフォニーホールにおける400回の出演（1995.4.18 特別演奏会で達成、全出演者中で最多出演）を果たし話題をよんだ。

1994年11月から、常任指揮者に国際的に活躍するウリ・マイヤー氏が就任。指揮者に、デイヴィット・ハウエル、堤 俊作、名誉指揮者に小松一彦、C.A.ビュンテの各氏が就任している。